

地域の経済

農業王国・十勝で、ジャガイモなど地元産の農作物が持つ健康への作用を科学的に証明する研究が進んでいる。地域産物の育成、発展を目指す「都市エリリア産学官連携促進事業」(文部科学省所管)として、帯広畜産大などの研究機関や民間企業が連携して取り組んでいる。既に三つの有望な成果を挙げており、事業化への期待も高まる。

●●● 帯広・十勝

つなげようと、二〇〇五年度から始まった。農産物に含まれる成分が持つ生活習慣病予防などの機能性を、帯広畜産大の研究者らがネスミを使った動物実験などで検証してきた。

これまでに①ジャガイモタンパク質が分解してできる「ポテトペプチド」が、悪玉コレステロールを減らし善玉コレステロールを増やす効果を持つ②生のナガイモを食べると乳酸菌など善玉菌に良好な腸内環境が整い、病原菌の増殖を抑えられる

農作物の機能性 研究着々



肝機能障害の改善などに効果が高いことが証明されたソバのスプラウト

地元産で新事業を

成果既に3件
高まる期待

③ソバの新芽(スプラウト)が、肝機能障害の改善などに効果があることなどを、科学的に証明した。

だが、事業として成立させるには、また克服すべき点も多い。

工場の廃液を有効利用する狙いは十分果たしているものの、タンパク質を分解する際に必要な酵素の働きをより効率化する

この事業の期間は〇七年度までの三年間。優れたいと話している。(帯広報道部 中野訓)

展が見込まれると、さらに三年間の事業を展開できる「発展型」に採択される可能性がある。発展型になると、現在の倍の開発が必要だ。最も実用に近いとされるソバの新芽も知名度が低く、生

同事業の中核となっており、財団法人十勝圏振興機構(帯広)の佐山晃司は「発展型の採択を受け、技術的な課題を克服し、研究に参加する民間企業に、商品の製造技術を利用してもらえるまで」と話している。

また、ナガイモを加工する「発展型」に採択される可能性もある。発展型になると、現在の倍の開発が必要だ。最も実用に近いとされるソバの新芽も知名度が低く、生

十勝の都市エリリア産学官連携促進事業は、帯広市や十勝管内の産学官連携団体などをつくる十勝圏振興機構が中核となり、帯広畜産大、道内外の民間企業20社が参加。ジャガイモやナガイモの研究のほか、十勝独自のナチュラルチーズの開発なども行われている。

ハメモ